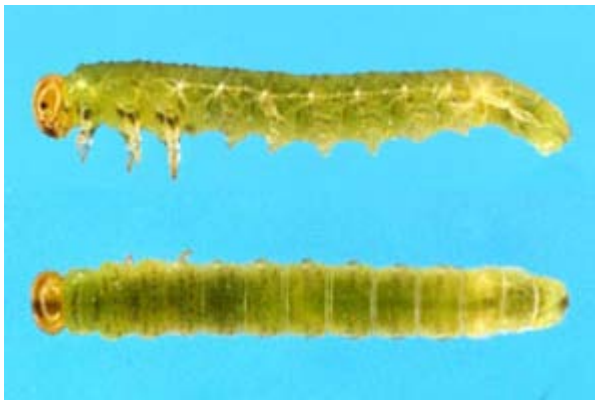
カラマツキハラハバチ

６～８月にカラマツの枝先の葉を食べるイモムシ（幼虫）．最大長約13mm．体は緑色．頭部は小さなときは茶色，大きくなると淡い黄土色で，てっぺんに暗い縞が現れる．
今年伸びた枝につく葉（長枝葉，ちょうしよう）だけを食べる．ときに多発する．

１．若齢幼虫．1985/6/21．厚岸町，カラマツ．



２．終齢幼虫，側面（上）と背面（下）．1985/6/29．厚岸町，カラマツ林．

【学名】 *Pristiphora takagii* 【分類】 ハチ目（Hymenoptera），ハバチ亜目（Symphyta），ハバチ科（Tenthredinidae）
【分布】 北海道，本州；朝鮮半島．

【特徴】
カラマツにはよく似たニセカラマツキハラハバチが寄生する．この幼虫の頭部は小さなときは黒，大きくなると黄土色になるが斑紋の状態が異なる．カラマツキハラハバチでは頭頂に縦縞があるだけだが，ニセカラマツキハラハバチでは頭頂の縦縞に加え前方に三角形の斑紋がある．

【生態】
宿主：カラマツ属（カラマツ，グイマツ）．
年１回発生．成虫は５～７月に出現． ５月中下旬に出現するタイプと６月下旬～７月上旬に出現するタイプがある．雌成虫は長枝葉の裏側に１個ずつ産卵する．幼虫は６～７月に長枝葉を食べて成長する．早いものは６月に，遅いものは８月に地上に降りて落葉中で焦げ茶色の繭を作る．その中で越冬する．

発育ステージ	～３月	4	5	6	7	8	9	１０	１１～
成虫・卵			‥○○	○○○	○○‥				
幼虫（摂食・成長）			‥	■■■	■■■	■‥			
幼虫（繭内，休眠）	＋＋＋	＋＋＋	＋＋＋	＋＋＋	＋＋＋	＋＋＋	＋＋＋	＋＋＋	＋＋＋

蛹（繭内）			‥◇◇	◇◇◇	‥				

【被害と防除】

カラマツ林でときどき多発するが，１～２年で終息する．短枝葉を食べないので食害により木が衰弱したり枯死することはない．普通，防除は必要とされない．道東の造林困難地において植栽直後のカラマツ幼木が，このハバチの食害とナラタケ病の複合被害により枯れた記録があるが，枯死原因はナラタケ病と考えられる．

庭木や街路樹では多発は記録されていない．

【文献】

1985．農林水産省林業試験場北海道支場保護部．北海道樹木病害虫獣図鑑．223 pp．北方林業会，札幌．（生態，被害，カラー写真）．

*1989．原秀穂．カラマツキハラハバチの成虫羽化時期．森林保護，209: 4-5.

*1994．原秀穂．カラマツキハラハバチ．小林富士雄，竹谷昭彦，編集，森林昆虫，総論・各論: 344-345．（形態，生態）

*の文献は北海道立林業試験場ホームページの「北海道立林業試験場・研究成果文献データベース」でみることができます．

北海道立林業試験場・緑化樹センター

カラマツキハラハバチ habachi/karakiha/kaisetu.htm

「文章」 原秀穂，北海道立林業試験場，2001/8/21-12/27.

yochu1.JPG，yochu2.JPG

「写真１～２」 原秀穂，北海道立林業試験場，1985.